



# 脳出血

前々回に脳動脈瘤、くも膜下出血のことを解説したので、今回は脳出血です。

昔は塩分摂取量が多く、また高血圧に対する降圧薬も種類が少なかったため、脳卒中死亡の多くは脳出血でした。現代では、減塩の推奨や高血圧治療の進歩により、脳卒中全体の2割ほどに発生率は低下しています。

## 原因

脳出血といえば、高血圧性脳出血といわれるように、高血圧が主たる原因です。高血圧による脳動脈硬化で血管が劣化して破れるわけですが、最近では、高齢者に特有の「アミロイドアンギオパチー」（アミロイドという蛋白質が脳血管にたまって起こる血管障害）という病気による脳出血も増加してきていると言われています。

加齢による脳動脈の劣化と考えられます。



## 分類

脳出血は大きく以下の5つに分類されています。

### 1. 被殻出血

被殻出血が最も多く、約半分を占めます。

被殻は運動の制御に関わる部位で、運動神経も近くを通過しているので、出血が起こると反対側の麻痺が生じます。また、左側の出血の場合は言語中枢が近いので、言語障害を伴うことが多いです。

### 2. 視床出血

2番目に多く、30%程度を占めます。ここも運動神経が近いので、反対側の麻痺を起こします。また、視床は知覚神経が通っているので、反対側に視床痛という痛みを生じることがあります。

### 3. 小脳出血

小脳は運動のバランスを司っているため、発症すると四肢のふらつきや運動機能の異常を起こします。

### 4. 橋出血

橋は脳からの指令を末端につなげる役割を果たしているため、ここが障害されると出血量が少なくても意識障害をきたしやすく、四肢の麻痺や呼吸の障害など、重篤な症状が起こります。

### 5. 皮質下出血

脳の表面の出血で、脳動静脈奇形などの血管病変が原因の場合があります。出血の場所により様々な症状をきたします。

## 症状

麻痺は、延髄の錐体という部位で運動神経が交叉しているため、右に障害があれば左に麻痺が出て、左であれば右に出ます。

それ以外に、脳は頭蓋骨によって覆われているため、内部で出血してもその圧力の逃げ場がありません。そのため、脳出血を起こすと頭蓋内の圧力が上がり、頭痛や悪心・嘔吐、意識障害を起こします。

## 治療

頭蓋内の圧力を下げる内科的治療を行います。これでも効果が観られない場合は、開頭をして、直接血種を除去しますが、脳の障害を修復することはできません。

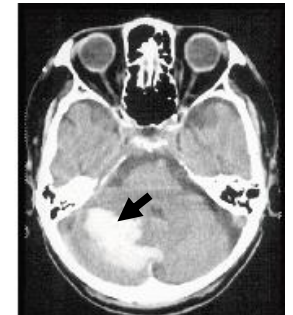
アルコール摂取は脳出血を起こしやすくさせます。この理由としては、アルコールは血圧上昇作用があるのと、血液を固まりにくくする作用があるためと考えられています。アルコール摂取量が日本酒にして1日1合で、発症率は飲まない人の1.8倍になり、2合以上で2.5倍になります。血圧が降圧薬を服用しても下がりにくい人は、アルコール摂取量を考えてください。



被殻出血



視床出血



小脳出血